●質的研究（グラウンテッドセオリー：GT）のクリティーク・チェックシート（作成：2020.6.1）

抄読する論文の掲載誌名： （IF:　　　　／雑誌のランキング　　　　　）

抄読する論文の被引用回数：

発表者氏名：

発表日：

抄読する理由：

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 　　 | チェック項目 | チェック（○△×） | チェックの理由（記載箇所を示すだけではNG） |
| タイトル | タイトルは研究のカギとなるテーマや研究方法論／デザイン（GT）を示しているか　 | 　 |  |
| 抄録 | 雑誌の投稿規定に沿って、研究の要約が簡潔に記載されているか。 | 　 | 　 |
| 序論 | 適切な文献を引用し、この研究テーマについて、既に明らかにされていること、先行研究の限界について記載されているか上記に基づき、この研究の必要性が述べられているか | 　 | 　 |
| GTの原則（引用文献をつけてあること）に沿ったリサーチクエスチョンが明確に述べられているか | 　 | 　 |
| 注）Glaser & StraussのオリジナルGTでは必ずしも先行研究を発展したものでなくても良しとされたが、近年のメタ統合の普及の影響で先行研究を踏まえた研究と変化した | 　 | 　 |
| 目的 | 研究で明らかにしたいことが明確で、最終的に中範囲理論の抽出／構築を目的としているか | 　 |  |
| 方法 | 研究デザイン | GTは研究目的にふさわしいものか | 　 | 　 |
| どの研究者によるGTを選択したのか、適切な引用文献をつけて選択した根拠を記述しているか | 　 |  |
| サンプリング | 理論的サンプリングが使用されたと判断できる記述があるか | 　 |  |
| データ収集方法 | 収集したデータの種類は研究目的に対して適切か（例　インタビューデータ、グループインタビュー、会話データ、テキストデータ、観察データ） | 　 | 　 |
| 研究目的に合ったデータ収集方法が用いられているか（例　半構造化インタビュー、In-depthインタビュー、などの他、データ収集のタイミングや回数、時間なども含む） | 　 |  |
| データ（分析も含む）の信用可能性（credibility）の検証方法を記述しているか（例：トライアンギュレーションやメンバー・チェック、ピア・デブリーフィングなど） | 　 |  |
| データ収集の手順は明確に記述されているか（例　逐語録を作成する） | 　 | 　 |
| 研究目的に合った十分な量のデータが収集され（例：対象者数、インタビューの時間・回数など）データ飽和の記述があるか | 　 | 　 |
| データ分析 | 選択したGTアプローチに基づく分析方法が説明されているか | 　 | 　 |
| 継続比較分析が実施されたと判断できる記述があるか | 　 | 　 |
| コード化、カテゴリー化、理論の抽出（あるいは構築）の過程が、選択したGTアプローチに沿って適切に行われたと判断できる記述があるか | 　 | 　 |
| 倫理的配慮 | 対象者に対する研究の説明は適切に行われたか | 　 | 　 |
| 対象者の同意を得ているか | 　 | 　 |
| 倫理委員会の承認を受けているか | 　 | 　 |
| 結果 | 対象者の特徴が記述されているか | 　 | 　 |
| データ収集に関する結果が記述されているか（例：インタビュー時間や回数、人数など） | 　 | 　 |
| 分析結果は抽出したカテゴリーやテーマを軸に詳細で明確に記述されているか | 　 | 　 |
| 最終的な結果は詳細な記述ではなく、理論として提示されているか | 　 | 　 |
| 研究結果は研究目的と合致しているか | 　 | 　 |
| オリジナルデータからの引用は適切で十分な量が含まれているか | 　 | 　 |
| 引用したオリジナルデータは関連するカテゴリーやテーマを支えていると判断できるか | 　 | 　 |
| 予想に反した／矛盾した結果も考慮した理論が導き出されたか | 　 | 　 |
| 考察 | データ、分析、結論のつながりは明確であるか | 　 | 　 |
| 主な研究結果は先行研究を背景に説明され考察されているか | 　 | 　 |
| 研究結果の転用可能性について記述されているか | 　 | 　 |
| 研究の限界やさらなる研究の必要性について記述されているか | 　 | 　 |
| 引用文献 | その研究分野における重要で専門的な情報が網羅されているか | 　 | 　 |
| 先行文献は適切に文中に提示または引用されているか | 　 | 　 |
| 資金提供者 | 研究助成などの資金源を記述しており、利益相反の恐れはないか。（研究内容に照らし合わせて、研究資金の有無の妥当性も確認する） | 　 | 　 |
| **参考文献**1. Ali N, May S, Grafton K. A systematic review of grounded theory studies in physiotherapy. Physiotherapy Theory and Practice. 2018:1-31.2. Achora S, Matua GA. Essential methodological considerations when using grounded theory. Nurse Researcher 2016;23(6):31.3. Cooney A. Rigour and grounded theory. Nurse Researcher 2011;18(4):17-22. 4. Cypress BS. Rigor or Reliability and Validity in Qualitative Research: Perspectives, Strategies, Reconceptualization, and Recommendations. Dimensions of Critical Care Nursing. 2017;36(4):253-63.★チェックシートについてわかりにくいところがある場合は、本書に例を挙げて詳しく説明していますのでぜひ参考にして下さい。『研究手法別のチェックシートで学ぶ よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版』（<http://jnapcdc.com/cq>） |